

坂場 私も下駄で思い出したんですが、下駄隠しという遊びがありましたよ。

佐賀 あった、あった。

坂場 ヘイの上とか、戸袋のすきまとか、やぶの中とかいろんなところに隠して、それを鬼が見つけるという遊びでしたが、あれも愉快でした。

佐賀 いろいろやったね。今でも公園があるんだから、やりやいいじゃないかと思うんだけど、それが出来ないとするのは、矢張り公園は、一地域の子供、つまりいつも顔を会わせている仲間が集まってくるんじゃない、町中のあっちこっちから来るから、お互顔が知らないの、うまくコミュニケーションが出来ない。毎日同じ時間に同じ顔ぶれが集まってこない、遊んでいるのはうまいかかないですね。好きな時、オライやるぞーといって、あっちこっちの家の中からバラバラと出てきて、すぐさま始められるという気安さがないとだめなんだなあ。

五、竹馬

坂場 子供の頃、竹やぶがあっちこちにくらもありましたから、こっそり盗みに行つて、よく竹馬を作つたもんです。竹馬には高いのも低いのもありましたが

私らの頃は、低い方が格好いいとされていて、竹馬に乗って、駆足競争をしたり、高い所から飛び降りたり階段を飛びはねて、ビヨンビヨンと上ったり降りたりしたり、また竹馬に乗ったまま探検ゴッコをしようというので下駄をはかずに、家から二、三時間も公園や藪の中や町の中を歩き回ったもんです。

佐賀 うん。そんなこともあった。でも考えれば竹馬に乗って、競争したり、探検ゴッコしたり出来たというのも、車が走っていないからですね。

坂場 それはそうですね。歩いていても常に生命の危険に暴かれているようでは、とても竹馬遊びどころじゃありませんからね。そういう意味では、自動車が多くなったということは、子供の世界を完全に奪い取ってしまったと言えるでしょうね。いくら公園があるといっても、そこまで行くまでが安全じゃないから、親も安心して出してやれないでしょう。やっぱり子供の遊び場は、家のすぐ近くにないとだめですね。

佐賀 一昔前までは、家の回りの路地がその場所だったんですが、そこまで車が進入して来る。これじゃだめですよ、自分がどんな風にして育ってきたかを考えれば、せめて裏通りぐらいは子供に開放してやらなければね。